

【研究主題】

I C Tを活用し、共に学び共に育つ授業を創造する
～情報活用能力育成を目指した主体的・対話的で深い学びの実践～

I . 研究の主旨

1. 研究主題設定の理由

新学習指導要領では、言語能力、問題解決能力と並んで、情報活用能力を学習の基盤となる資質・能力として育成することが求められている。大阪市教育振興基本計画においても、I C T活用教育の推進、主体的・対話的で深い学びのための授業改善が重点課題として挙げられている。また、文部科学省が掲げた「GIGAスクール構想」が、この度のコロナ禍により前倒し実施となった。本研究は二年目となるが、これまでに本校教職員はデジタル教科書、NHK for school の番組やデジタルコンテンツ等、児童の実態に合わせて日常的にI C Tを効果的に取り入れた授業を実践してきた。

昨年度に引き続き、研究テーマを「I C Tを活用し、共に学び共に育つ授業を創造する～情報活用能力育成を目指した主体的で対話的な深い学びの実践～」とし、年間を通してI C Tを児童が主体的に活用する授業改善を行う。教科等横断的に単元を設定し、「習得・活用・探求」の学習の流れを確立し、児童が主体的に情報を収集、取捨選択、分類整理し、発表する活動の中で、協働してプレゼンテーション資料を作成する活動を行う。そのプレゼンテーションを互いに聞きあう過程で、他学年や他校、他地域と交流し、自分の考えや意見を他者と比較することで、自分の考えや意見を確かなものにし児童の深い学びを実現するような授業実践を進める。また、今年度はコロナ禍のため長期にわたる臨時休業で始まり、子どもたちの学びを止めないようさまざまな取り組みにも力を入れている。教師から児童への一方向の取り組みから、オンライン会議アプリや協働学習アプリを活用し、教師から児童、児童同士の双方向のやり取りの実践も行っている。このように、休校中でも学びとつながりを途切れさせないように取り組むことで、休校明けも比較的スムーズに学習を進めることができている。

今年度は、I C Tを活用する中でも遠隔授業の機会や協働学習アプリを活用し、更なる情報活用能力育成を目指す授業実践を行うこととした。

2. 研究の内容

①情報活用能力チェックリストによる実態把握

- ・児童の情報活用能力の現状を把握し、チェックリストの低い項目に着目し効果的な活動を探る。

②昨年度からの年間計画に基づく実践

- ・情報活用能力の3観点(情報活用能力の実践力・情報の科学的な理解・情報社会に参画する態度)を意識する。
- ・新教科書に対応した実践を開発する。

③全学年での系統立てたプログラミング教育の実践

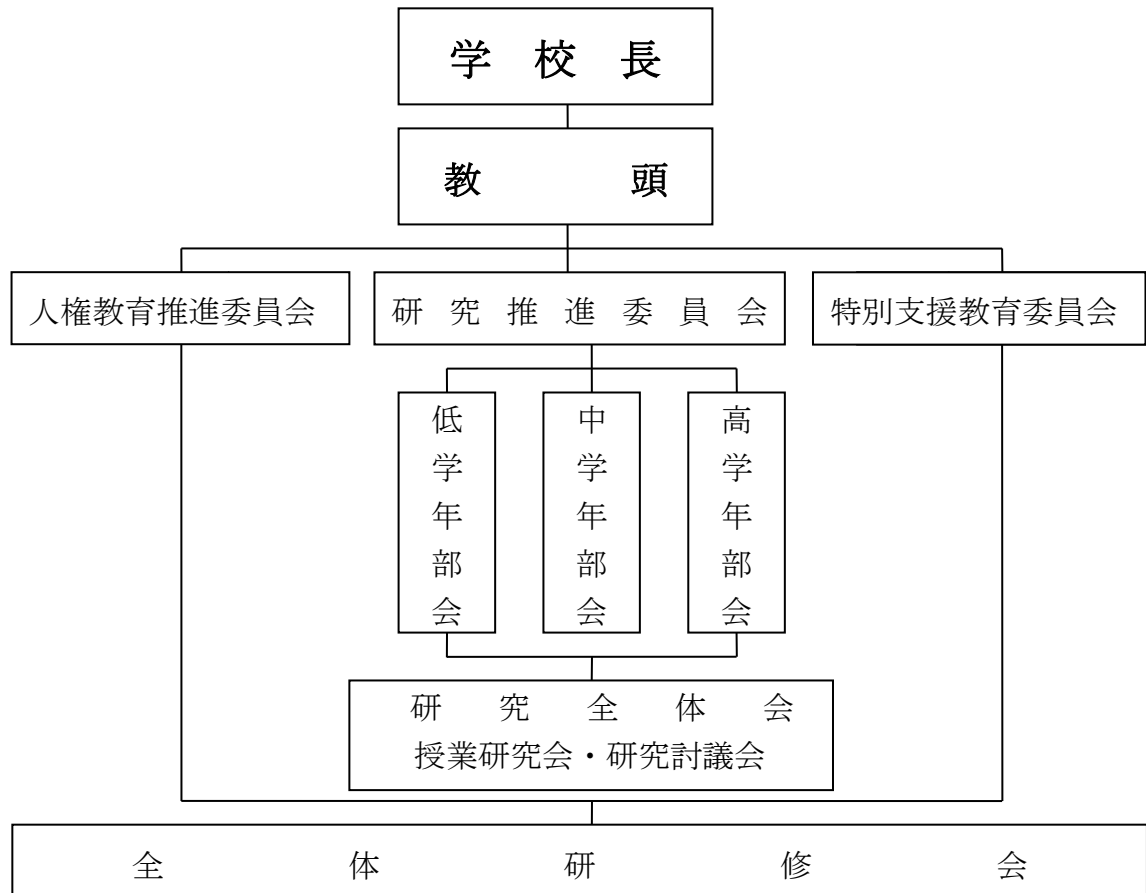
- ・「順次」「反復」「分岐」の三観点と、「アンプラグド」「プログラミングソフト」「ロボット等」の組み合わせを考え、系統的な年間計画を作成する。

④GIGA スクール構想を見据えた実践

- ・話し合い活動の単元を遠隔授業で他校と同時に進めることで、より多くの意見を交流し深い学びへとつなげる。

Ⅱ．研究の進め方と経過

1．研究組織



2．研究の進め方

- (1) 研究の重点は全領域に共通することであり、領域を絞らず、日々の授業において実践する。
- (2) 授業研究を通して、研究を進める。
 - 全ての学年で、1回ずつ授業研究・研究討議会を行う。
 - ・ 指導案検討会は、研究推進委員会と低・中・高学年部会で行う。
 - ・ 外部から講師を招聘し指導助言をいただく。
- (3) 授業実践を中心とする研究成果をまとめ、研究発表会で報告する。
 - 全市に向けた、公開授業と研究発表会の機会を持つ。
 - 研究紀要・学校ホームページに全学年の実践を掲載する。

3. 研究活動の経過

月	研究・研修の内容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進委員会—研究組織と研修計画の立案 ・「がんばる先生支援」研究支援申請書作成・申請
5	<ul style="list-style-type: none"> ・研究全体会—研究組織の立案、研究の内容、授業研究の計画
6	<ul style="list-style-type: none"> ・合同研修会「コラボノート講習会」オンラインにより他校からも参加 ・授業研究会 特別支援学級算数科「ひきざん」「かけざん」
7	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案検討会 ・小小連携合同研究会
9	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案検討会 ・授業研究会 3年 社会科・総合「店ではたらく人びとの仕事」 大阪市立南港桜小学校と遠隔交流授業、研究討議会 ・授業研究会 5年 社会科・総合「これからの食料生産とわたしたち」 研究討議会
10	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案検討会 ○がんばる先生支援研究発表会 ・授業研究会 3年 社会科・総合「店ではたらく人びとの仕事」 大阪市立南港桜小学校と遠隔交流授業、研究討議会
11	<ul style="list-style-type: none"> ・6年 総合「広島について学んだことを伝えよう」研究討議会 ・指導案検討会
12	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究会 2年 特別活動「友だち、先生クイズを作ろう」 研究討議会 ・指導案検討会 ・授業研究会 6年 理科「大地のつくりと変化」研究討議会
1	<ul style="list-style-type: none"> ○がんばる先生支援研究発表会 ・公開授業 1年 図画工作科「スイミー」 ・公開授業 4年 国語科「調べたことを報告しよう」 ・研究発表
2	<ul style="list-style-type: none"> ・小小連携合同研究会 ・がんばる先生支援報告書作成
3	<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進委員会 研究紀要の作成計画・作成 ・研究全体会 研究のまとめと次年度の研究計画立案 ・研究紀要の作成

Ⅲ．研究のまとめ

「ICTを活用し、共に学び共に育つ授業を創造する～情報活用能力育成を目指した主体的で対話的な深い学びの実践～」という研究主題のもと、教科等横断的に単元を設定し、児童が主体的に活動するよう実践研究を進めた。協働してプレゼンテーション資料を作成して交流し、話し合ったことを基にして、自分の考えを深めるという力をつけるために、全学年で日常的に取り組み、次のような成果をあげることができた。また、今後の課題についても明らかとなった。

1．研究の成果

- 1人1台の活用授業に各学年で取り組むことができ、児童の情報活用能力、教員のICT活用指導力が向上した。
- 児童が様々な相手と交流する機会を持ったことで、多様な意見に触れることができ、深い学びへと結びついた。
- 遠隔交流時には、目の前の相手ではなく、画面の向こう側にいる相手に伝えようとする意識が大変高まった。
- オンライン会議アプリや協働学習アプリを活用することで、他者と比較する機会を多く持ち、自分の考えを確かなものにし、深い学びを実現することができた。また、多様な意見に触れ、対話的な学習を発展させることができた。
- 新教科書に合わせたICTを活用した年間計画を再作成する中で、情報活用能力チェックリストで見えた課題をクリアできるような内容を組み込むことができ、情報活用能力が向上した。
- 遠隔教育への教職員の意識や授業力の向上が見られた。また、機器環境の整備を進めることができた。

2．今後の課題

- 1人1台端末活用に即した形での情報モラル教育、プログラミング教育の年間計画の再構築や情報活用能力チェックリストの見直しを行う。
- 年間を通して安定した情報活用能力が実感できるようなICT計画の見直しを行う。
- 1人1台活用授業の事例の開発、実践をさらに進めるとともに、教職員の活用指導力の向上を図る。
- 遠隔での児童同士のやりとりへの個別支援や評価の方法を工夫する。
- 遠隔交流の際には、教科学習の目標に即した交流相手を見つける難しさがある。相手校との詳細な打ち合わせが必要であり、効率よく進めていけるような打ち合わせの方法や計画の進め方を引き継いでいくことも必要である。
- 遠隔交流時には、機器接続の不具合により、予定通りに進まない場面もあった。今年度の実践をもとにさらに授業展開や機器環境の改善・充実を図る。